

# 千葉市の花火大会の歴史

## <戦後千葉市の花火大会の始まり>

1948年（昭和23年）、出洲海岸で行われた花火大会が最初です。

きっかけは・・・

当時の出洲海岸納涼台組合長が、「戦災復興中の千葉市には市民の憩いとなるような催し物も少ない。遠浅の出洲海岸を利用すれば素晴らしい花火大会ができる。夏の風物誌として是非花火大会を」と、当時の市長（加納市長）にお願いしたのがきっかけでした。



## <花火大会の中止>

その後、出洲海岸の埋め立てが進み、千葉港となり、花火実施場所が、揚陸材木の蓄積場所となったため、1973年（昭和48年）の第26回を最後に花火大会は中止となりました。



## <花火大会が「千葉市民花火大会」として復活>

市民からの要望が高まり、1978年（昭和53年）人工海浜のいなげの浜で、第1回千葉市民花火大会が再開されました。



## <会場が、いなげの浜から千葉ポートパークへ>

稲毛の浜周辺の住宅開発が進み、住宅街への降灰事例が出てきたため、1988年（昭和63年）第11回花火大会より、会場が千葉ポートパークに移されました。



## <会場が、千葉ポートパークから、幕張海浜公園へ>

昨年は、震災の影響で、同日開催を予定していた江戸川の花火大会や佐倉市民花火大会が中止となり、例年を大幅に上回る観覧者が見込まれること、それに伴う自由観覧席の確保が不可能なことなど、警備や安全面からやむなく中止されました。

会場の移転を検討した結果、幕張海浜公園で、2年ぶりに開催されることになりました。

「千葉市観光協会のあゆみ」より一部抜粋